



平成30年度 南アルプスユネスコエコパーク推進事業 実績報告



高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性
南アルプスユネスコエコパーク

ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）」を目的として、ユネスコが認定する取り組みです。具体的には、「地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取り組み」で、世界では「生物圏保存地域（Biosphere Reserves）」と呼ばれて、現在 **120カ国669地域**、日本では**9地域**が登録されています。（2017年6月現在）

南アルプスユネスコエコパークは、山梨県、静岡県、長野県にまたがる、日本最大のエリアを持つエコパークで、山梨県では、北杜市のほか、南アルプス市、韮崎市、早川町が登録されています。

総面積	302,474ha
核心地域	24,970ha
緩衝地域	72,389ha
移行地域	205,115ha

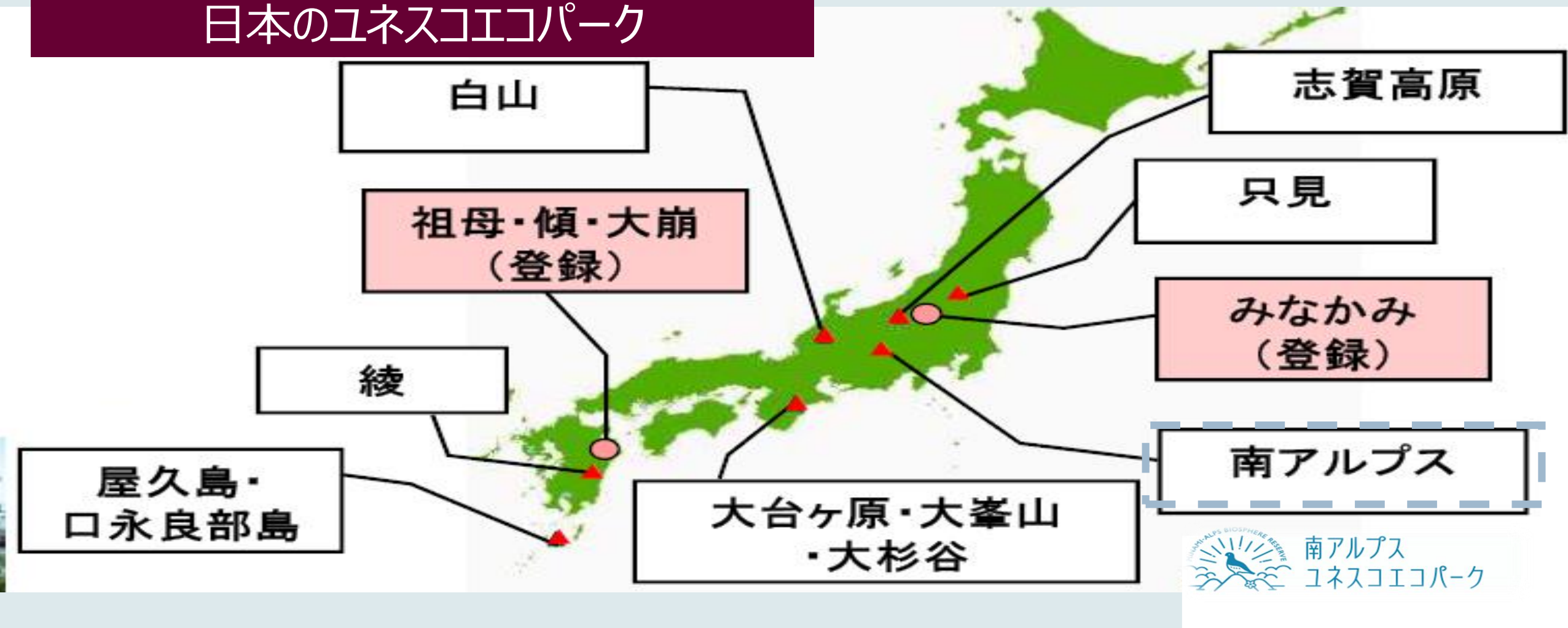


核心地域

緩衝地域

移行地域

日本のユネスコエコパーク



南アルプスユネスコエコパークは、
2014年（平成26年）6月12日登録！

南アルプスユネスコエコパークのエリア

エリアは、南アルプス国立公園を中心とした地域

➡ 北杜市は、白州・武川をエリアとして登録

核心地域・・・国立公園の特別保護地区など自然環境を守らなければならない大切な地域で、北杜市では南アルプス国立公園の地域で適切に保護されています。

緩衝地域・・・核心地域の周辺で、環境教育、野外活動、調査活動等に利用できる地域であり、山梨県立自然公園の地域です。

移行地域・・・私たちが暮らしを営んでいる地域で、様々な社会活動が行われています。

白州・武川エリアの資源

山・・・甲斐駒ヶ岳、地蔵ヶ岳、日向山など

景観・・・山岳景観日本一、尾白川溪谷、

精進ヶ滝、桜、里山、田園など

水・・・清流（尾白川、神宮川、大武川、

石空川など）、ミネラルウォーター生産量が全国の約 3 割を占める

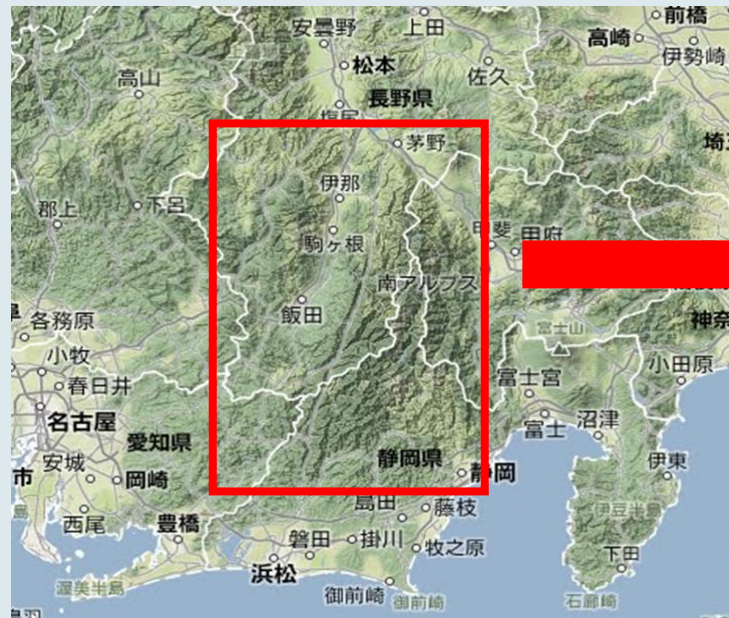
産物・・・米、そば、長芋など

歴史・文化・・・台ヶ原宿、神社、山岳信仰、

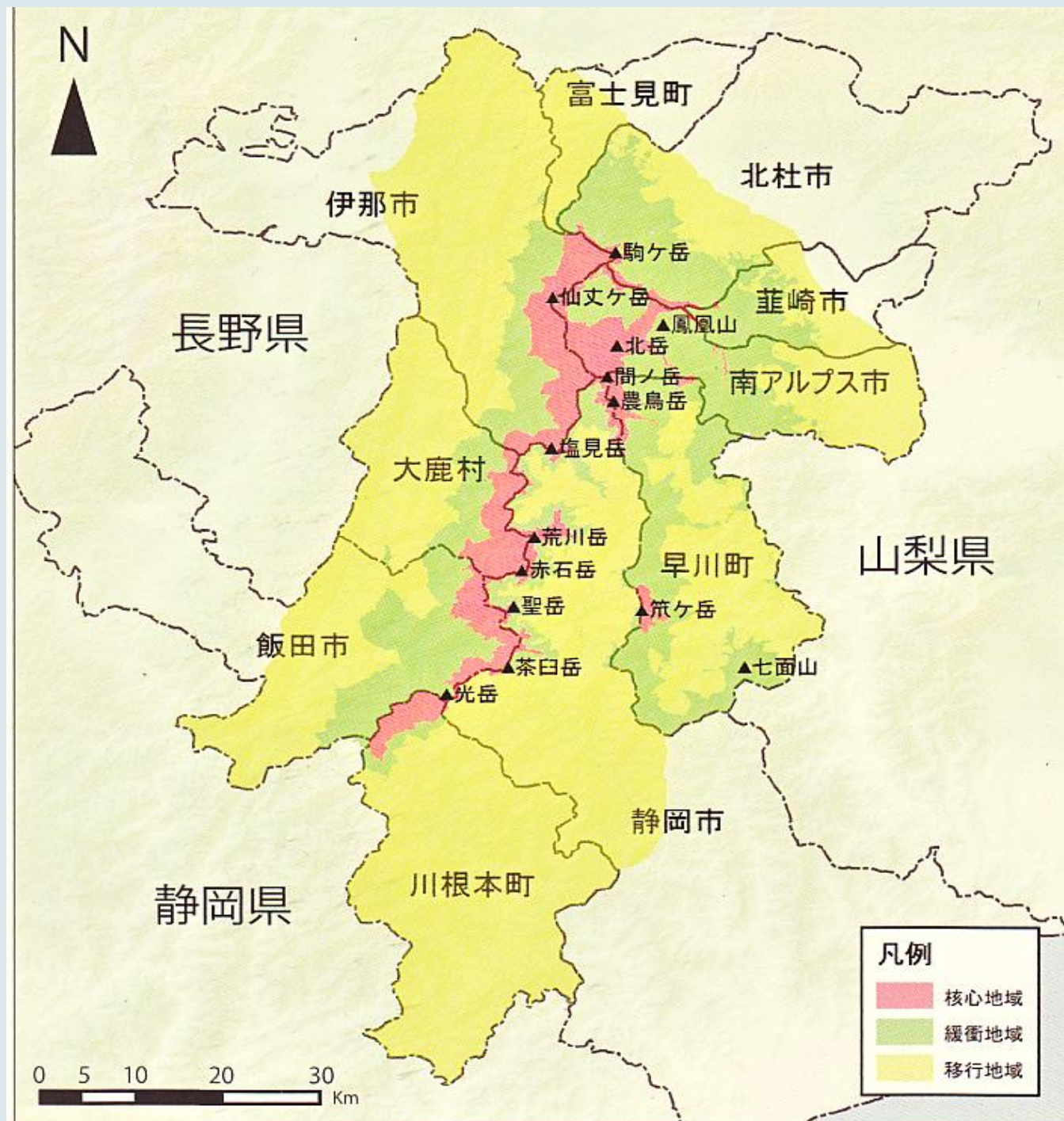
民話、虎頭の舞、奉納相撲、

大和神楽など

南アルプス ユネスコエコパーク区域図



総面積 302,474ha



ユネスコエコパークの魅力は

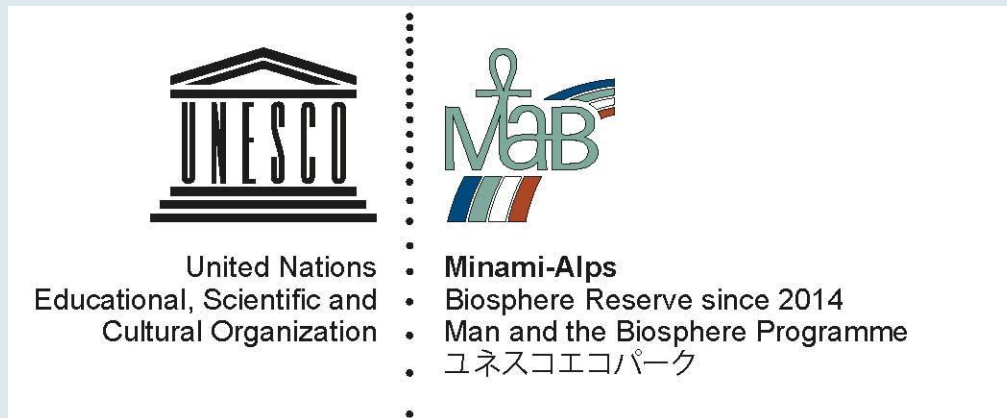
- ・南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりを行い、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。
- ・ユネスコエコパークとして、ふるさとの魅力を世界へ発信することで、国内外から観光や教育を目的とした旅行者の増加が期待できます。
- ・新しい法律や規制はありません。国内の既存の法律などで管理されます。
- ・環境教育や学術研究の実践の場として活用できます。

南アルプスユネスコエコパーク事業の目的

・甲斐駒ヶ岳を中心とした世界に誇れる貴重な資源を再発見・再認識し、自然と文化のつながりを市民共有の財産として位置づけ、優れた自然環境の継続的、永続的な利活用をはかりながら、魅力あるまちづくりを進めることを目的としています。

（北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会規約より抜粋）

・この目的を達成するため、北杜市では市民、企業、団体、行政が一体となり、『北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会』を設立して、市と協働で事業を実施しています。



平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

事業名	科目	予算額	決算額
1. 地域連絡会尾白川・精進ヶ滝等環境整備事業	補助金	1 5 0 千円	1 3 千円
2. 森林整備等財産区活動支援事業	消耗品費	1, 2 7 0 千円	1, 2 0 7 千円
3. 地域連絡会伝統芸能等保存事業	補助金	2 0 0 千円	1 8 9 千円
4. 地域連絡会史跡・文化等小冊子作成事業	補助金	1, 0 0 0 千円	1, 2 9 7 千円
5. 子ども公民館劇場事業	使賃料	1 5 0 千円	0 千円
6. 動植物生態系調査事業	委託料	2, 0 0 0 千円	1, 9 8 8 千円
7. 地域連絡会研修事業	補助金	3 0 0 千円	1 8 3 千円
8. P R、情報発信事業	消耗品費 印本費ほか	1, 8 5 1 千円	1, 6 3 8 千円
9. 地域連絡会中山砦並びに展望台整備事業	補助金	8 1 5 千円	5 8 5 千円
10. 関係市町村との連携事業	負担金ほか	8 6 1 千円	7 7 3 千円

平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

1. 地域連絡会尾白川・精進ヶ滝等環境整備事業

■ 予算額 150千円 決算額 13千円

エコパークエリア内の環境、景観保全のため環境美化活動を行い、平成30年度は外来植物を学ぶ講座を同時に行いました。高山域への侵入を防ぐとともに、在来植物の保護も大変重要となってきます。



2. 森林整備等財産区活動支援事業

■ 予算額 1,270千円 決算額 1,207千円

白州町並びに武川町内の財産区、保護組合の森林保全活動の支援を行いました。

豊かな森が、きれいでおいしい水を育み、里山の様々な活動に潤いを与えてくれます。下草刈りや樹木の枝払い、道づくりの環境整備などに必要な物品購入に活用しています。

3. 地域連絡会伝統芸能等保存事業

■ 予算額 200千円 決算額 188千円

市民等に対して、地域に伝わる民話やで白州町下教来石の伝承芸能「獅子舞・道祖神祭り」を学ぶイベントを開催した。同時に映像収録を行い、資料として保存し、活用を図る。

民話を楽しみ、地域の伝承行事に学ぶ会（2/17）
来場者60名の参加がありました。



↑ 市民による民話の披露

↓ 獅子舞の披露

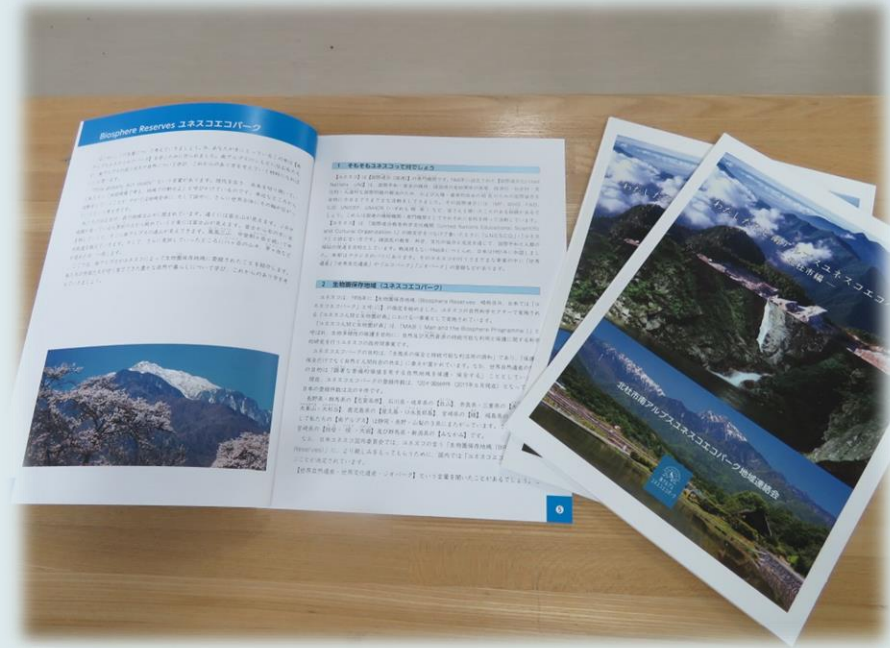


平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

4. 地域連絡会冊子作成事業

■ 予算額 1,000千円 決算額 1,296千円

エリアにある地理や自然環境のほか、動植物、民俗などをまとめた小冊子を作成し、エリアの魅力を内外に発信する。内容は小学校高学年以上を対象としており、知ってもらうことが重要であることから、授業での活用も図っていく。



↑ 一部英文を交えた小冊子

5. 子ども公民館劇場事業（子どもたちの体験発表会）

■ 予算額 150千円 決算額 0千円

白州小・武川小学校の児童がユネスコエコパークに登録された地域を調査、分析し、発表、検証することで、資源の再発見が出来ると共に、市内外に情報発信するもの。

平成30年度は、白州小では日向山や地域の文化財について学び、武川小では、特産品の武川産米を米づくりを通して学んだ。これを、校内外の多くの方に向けて発表しユネスコエコパークのことを交えた教育活動が出来ました。



平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

6－1．動植物生態系調査事業 ■ 予算額 2,000千円 決算額 1,988千円

概要

既存資料等により動植物の生息及び生息状況を把握するとともに、市民参加による調査を通して生きもの調査に関わる人材を育成し、生物の多様性を保全していくための基礎情報を集積する仕組みを構築するものです。

実施内容

回数	時期	テーマ	概要
第1回	6月	河川の生きもの調査	武川小学校5年生、先生と北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会会員と大武川において生きもの調査を実施した。
第2回	8月	河川の生きもの調査	市民を対象に、尾白川において生きもの調査を実施し、大武川との比較も行った。
第3回	8月	河川の生きもの調査	市民を対象に、大武川において生きもの調査を実施した。
第4回	9月	森の植物調査	北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会会員を対象に、白州町並びに武川町にまたがる中山において、植物調査を実施した。
第5回	12月	森のけもの調査	北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会会員を対象に、中山において、ほ乳類調査を実施した。

平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

6－2．動植物生態系調査事業 ■ 予算額 2,000千円 決算額 1,988千円

調査結果

回数	内 容	取りまとめ
第1回	カジカ、カワゲラ類、ヒラタカゲロウ類、ヘビトンボ、ナガレトビケラ類、ヤゴ類などを確認した。特に尾白川ではヤゴ類が多く確認された。これらの生物は、きれいな水にしか住むことができない生き物である。	生きもののリストとして、白州町誌や武川村史のほか、山梨県レッドデータブックなどからリスト化した。 今回の調査をベースに、モニタリグ調査を実施するため、体制づくりの構築が必要である。併せて、将来の担い手の育成も大変重要である。
第2回		
第3回		
第4回	中山山頂付近と麓の林道において実施し、植生の違いを調べた。葉を採取し押し葉標本を作製した。	
第5回	中山にセンサーカメラを設置し撮影したところ、ニホンジカ、ニホンザル、イノシシのほか、テン属を確認した。	

総 括

子どもたちが多く参加してくれたことに大きな意義がありました。川に入ったことがない子どもたちが多く、調査を通じて地域の魅力を再発見できたと思います。

また、地域連絡会をはじめ、市民参加型で調査をすることで、自然を守り、次世代へ継承する気持ちを醸成することが出来たと思います。毎年継続して調査を実施していくきっかけができ、今後は、継続調査の体制整備を行っていきます。



平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

7. 地域連絡会研修事業

■ 予算額 300千円 決算額 183千円

国内のユネスコエコパークを構成する石川県白山市を訪問し、白山や手取川を活かした、守ると取組と活かす取り組みを視察しました。白山市は日本ジオパークにも登録されており、市民が主体となった地域づくりなど、盛んに行われています。

地域連絡会の活動に良い刺激となりました。



↓ 地域の食材を生かした「ジオ弁」

↑ 研修の様子

8. PR、情報発信事業

■ 予算額 1,851千円 決算額 1,637千円

認知度の向上を図るため、情報発信拠点である道の駅はくしゅう、甲斐駒センターせせらぎの情報コーナーでの発信を行いました。

また、地域のことを楽しみながら学ぶことができる、ポップアップカードを作成し、学校の授業やイベントでのワークショップで活用し、さらなる理解を深めていきます。

ポップアップカード



平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

9. 地域連絡会中山砦並びに展望台整備事業

■ 予算額 815千円

決算額 584千円

概要

中山展望台からの眺望をより一層魅力的なものとし、市内外からの誘客を図るために、前年度に伐採した展望台周辺に、中山に自生する低木の植樹を行うと共に、下草の刈り取りを併せて行いました。

地域連絡会のメンバー16名により、ヤマツツジとミツバツツジを合計100本植樹しました。

また、次年度以降に継続して植樹が出来るよう、挿し木を行い、苗も育てることとしました。

中山が、ツツジの山となるよう、管理していきます。



挿し木苗を育てる →



平成30年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

10. 関係市町村との連携事業

■ 予算額 861千円 決算額 773千円

3県10市町村で組織する協議会及び山梨県連絡協議会での実施事業の運営、協力を行いました。

↓ 山梨県内4市町合同取り組み発表会



南アルプスユネスコエコパークをPRし、このエリアの素晴らしさを市民に再認識してもらうとともに、後世に守り伝えるため、市民、企業、団体と一体となり事業を進めて参ります。



←イオン甲府昭和でPR→

